山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第２１０号(通巻第２７７号)

2024 年 3 月 28 日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL　055-220-8325、FAX　055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊コンテンツ一覧＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■第43回教育フォーラム思考力・判断力・表現力を考える２

「～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～」

■令和５年度「前期実習前教師力養成講座」の報告

■令和５年度山梨大学教師塾プログラム教員就職直前講座

「教師に関するもやもや解消講座」報告

■令和５年度「第２回不登校の子どもを支える保護者の会情報交換会」報告

■４・５月の主な行事予定

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

これまでのセンターだよりの一部は、https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/ で見ることができます。

第43回　教育フォーラム

思考力・判断力・表現力を考える2
～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～

令和６年１月26日午後６時から、教育学部A会議室に於いて、第43回教育フォーラムを対面とZOOMによるオンラインのハイブリッドで開催しました。

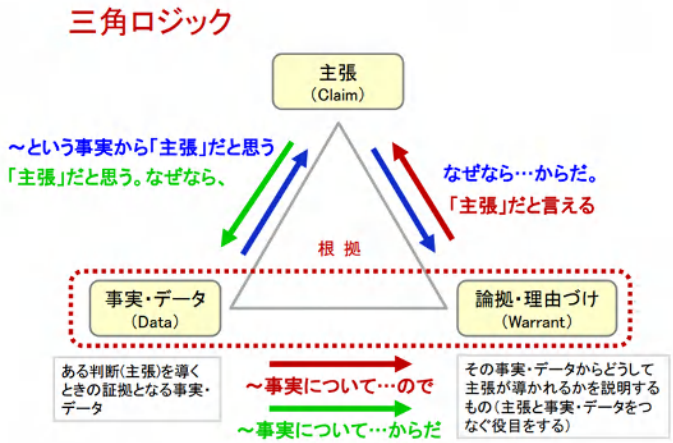
学校教育も、社会の急激な変化に対応できるよう、児童生徒の思考力 ・判断力・表現力を育んでいくことが急務となっています。そして、そのためには、「論理的思考・批判的思考・対話」を引き出す学習デザインが有効だと考えられます。そのため今回は、第41回教育フォーラムで好評を得た、トゥールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授業実践を先導している前田秀樹氏を講師に迎え、「論理的思考・批判的思考・対話」の育み方について、その考え方や実践方法を講演いただき、さらに実践事例について議論しました。

昨年度よりも事例に重きを置いた講座にしたことにより、初めての方にも２回目以降の受講者の方にも、より授業実践に役立てていただけたことと思います。

当日は、小学校９名、中学校８名、高等学校６名、支援学校１名、大学・教職大学院教員等12名、教育行政３名、一般４名の計43名の参加があり、内11名は対面での参加でした。

＜講演＞

関西学院高等部　前田秀樹先生から「思考力・判断力・表現力を考える2～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～」と題する講演をいただいた。



【出典】『対話型論証ですすめる探究ワーク』勁草書房.pp.5-6.

講演は、①対話型論証とは何か、②対話型論証を使って探究的な学習を体験するワークショップ、③対話型論証の実践（教科）の３つの内容であった。

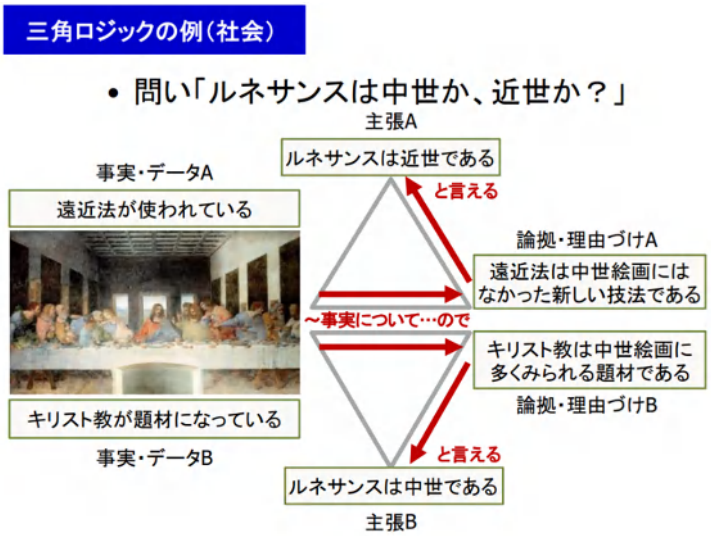
①対話型論証とは何か

- 対話型論証とは、ある問題に対して他者と対話しながら根拠を持って主張を組み立て、結論を導く活動であること。
- 主張は根拠を持って行うことが必要であり、事実・データと論拠・理由付けを合わせて根拠としていること、また、三角形の頂点にある主張、事実・データ、論拠・理由付けをどのような順でも説明ができること。
- 対話型論証は、三角ロジックに基づいて自分の意見を主張するだけではなく、自分の考えと違

う主張に対しても三角ロジックを用いて考え、比較した上で違う主張にはこんな問題点があると反駁し、最終的に自分の結論を導く方法であること

以上を、初めての方にもわかりやすく、図を用いて説明していただいた。

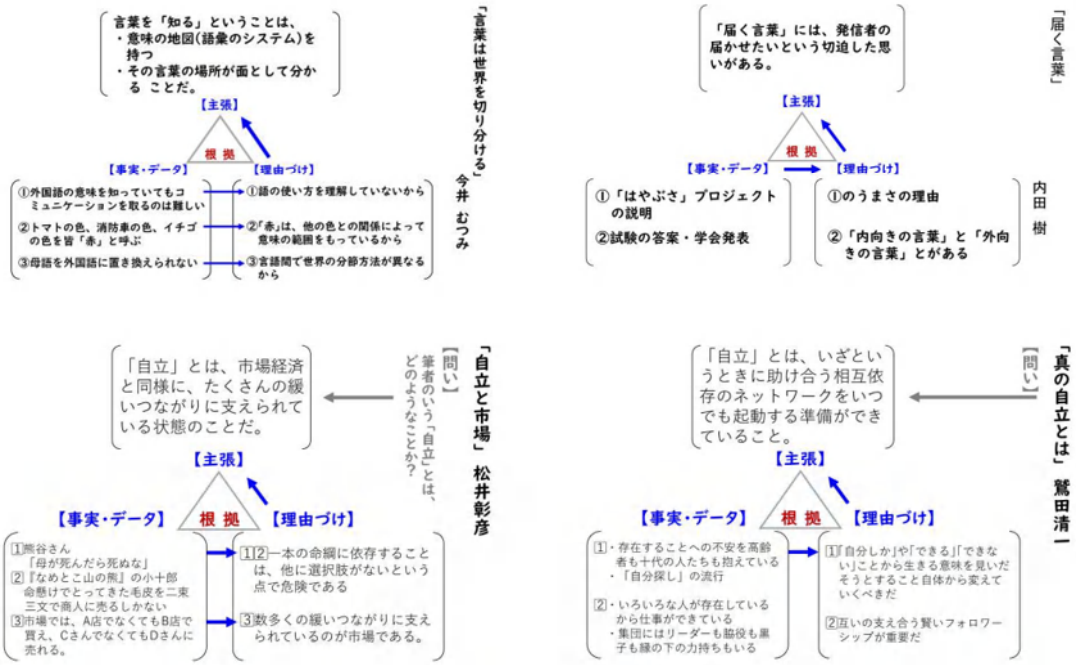
さらに、具体例として「最後の晩餐」の絵を用いて「ルネサンスは中世か、近世か」について三角ロジックを活用した社会科の実践を紹介していただいた。また、ノーベル賞を受賞しているような研究にも、同じように対話型論証が使われているというお話を伺い、いろいろな分野・教科で適用できる汎用性と可能性を感じた。



②対話型論証を使って、探究的な学習を体験するワークショップ

次に、探究型学習において問いを立て学習を進める前段階で探究の型を捉えるワークショップを行った。探究的な学習を進める際には、各自が設定する問いがバラバラ、学習の進度が違う、評価が難しいなどの対応の難しさ、課題などが想定されるが、これに対して、ICTと対話型論証を組み合わせることで、個に応じた指導をしつつ、指導と評価の一体化を図っていく実践例をお話いただいた。

高1・現代の国語 実践例

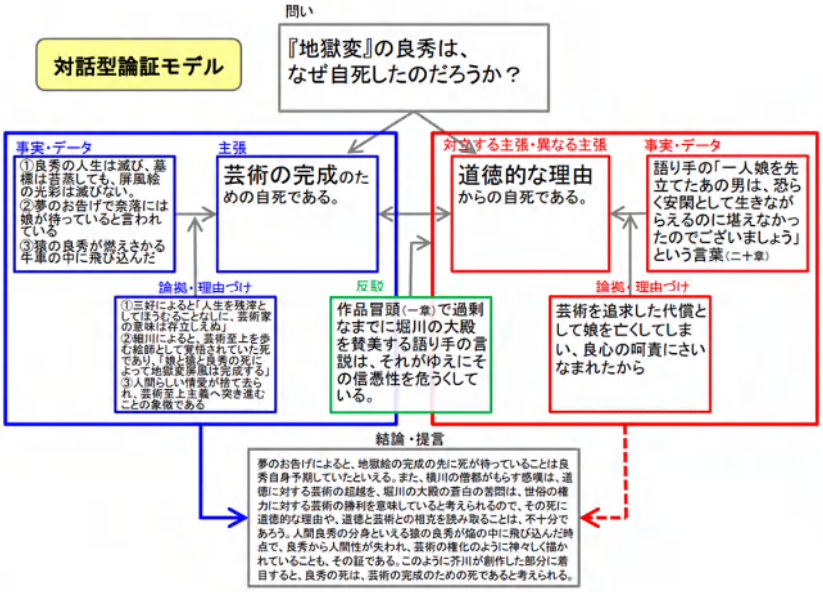


評論の読解：三角ロジックで[主張][具体例][理由づけ]を整理

この後、３、４名のグループに分かれ、対話的論証を実際に体験した。「山梨県はラーケーションを導入するべきだろうか」という問いに対して、Google drive上のファイルを共有し、話し合いながら「ひな形スライド」に入力していった。ICTを用いた対話型論証の体験をすることで、個に応じた指導、形成的評価を行う上で対話型論証が非常に効果的であることを実感することができた。

③対話型論証の実践（国語）

現代国語・言語文化での実践例をご紹介いただいた。前田先生は、現代国語の授業はすべて三角ロジックを使って行っており、はじめに本文を読んで記入した三角ロジックと精読後に記入した三角ロジックとを比べ、議論しながら筆者の言いたいことを捉えるなどの活動を行い、テストも選択する形式ではなく三角ロジックを使って筆者の主張を捉えて記述する形式をとっていることなど具体的な進め方を紹介していただいた。

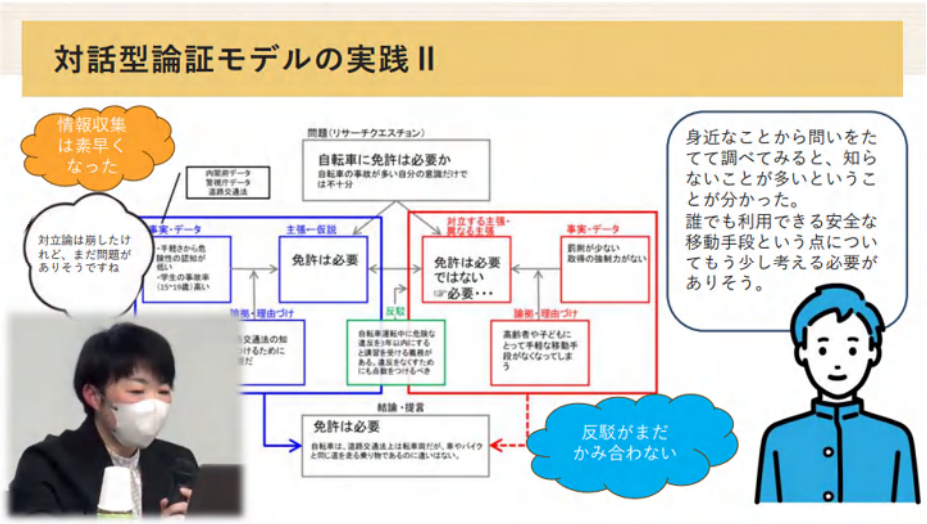


最後に「地獄変」を使って読み比べをする研究授業の実践を紹介していただいた。「地獄変の良秀は、なぜ自死したのだろうか？」を考えていく授業であった。研究者の書いた資料を読み、三角ロジックに当てはめ、対話的論証モデルを使って学びを深めていく実践であった。他の教科でも探究的に仕立て直すことのできる可能性を感じる実践であった。

ポスト真実の時代、誰かの主張の正しさを確かめたり、自分自身が正しく主張したりするには、どうすればいいのかという課題に対して、対話型論証はそれへの有効な提案でもあるということが納得できた講演であった。

＜パネリストの発表＞　　山梨県立笛吹高等学校　木下花子先生

「対話型論証の実践～失敗から情報収集に必要な資質・能力を考える～」と題して国語科での取り組みが紹介された。教科書の文章に基づいた「優先座席では譲る側が席を譲るか判断すべきか？」という課題について、対話型論証モデルを活用した実践報告であった。内容は以下の通り。



一回目の実践後の

振り返りから、根拠となる情報の収集が十分でなかったり、問いが自分事になっていなかったりしていたと分析した。

そこで、二回目の実践では、生徒自ら以下の２つの問いを立てて実践を行った。「学校でのメイクは許可するべきか」の問いでは、前回に比べると事実データを示したり自ら情報収集をしたりするなど意欲は感じられたが、根拠・理由付けが十分とは言えなかった。２つ目の「自転車に免許は必要か」の問いでは、反駁により対立論を崩すことはできたが、十分に反駁がかみ合っているとはいえない実態がみられた。

以上の実践を終えて、生徒が次第に自分の考えを言葉で表現できるようになり、語彙が増えたことを実感している。また、適切な根拠を考えたり、相手の視点に立って考えたりできるようになってきた。しかし、反駁が十分でない点や、相手の反応について予測できていない点もあるので、今後、更に取り組みを進めていきたいと考えている。

甲府市立上条中学校　森田美結先生

「古文の授業を用いた対話型論証モデルの実践～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して～」と題して国語科での取り組みが紹介された。内容は以下の通り。

授業の中で、他者の考えやその根拠、考えの筋道などを知り、共感したり疑問を持ったり自分の考えと対比したりできるようになることを目標にして実践を行った。

平家物語の「扇の的」の最後の部分になぜ主語を書かなかったのか、誰が言ったセリフなのか、なぜこんな終わり方にしたのかを考えさせていきたいと考えた。具体的には、なぜ最後が、「あ、射たり。」「情けなし。」で終わっているのか？を、三角ロジックを使い、主張とその根拠、根拠と意見をつなぐ考えを、個人で考えた後、ICTを活用し班で考えていった。最後に学びの振り返りとして、テキストと自分の主張をつなぐための考えを入れて、自分の意見を文章で書く活動を行った。

生徒の書いた単元の振り返りでは、三角ロジックを意識して自分の意見を形成することが説得力ある意見につながる、意見の交流を通して自分にはなかった考えを知り考えの広がりや深まりを感じることができたなどの記述があった。

古典の学習は知識のインプット重視になりがちだが、この実践を通して、テキストをもとにした考えの形成、交流を通した考えの広がり・深まりを意識した授業に近づくことができ、対話型論証モデル（三角ロジック）の有用性を感じている。一方で、今回は反駁を含まない三角ロジックを使った実践を行ったので、対立意見を意識した上で自分の意見に説得力をもたせることに課題があると考えている。今後、対話型論証モデルの反駁の要素を加えていくことで、さらに考えを深めたり、批判的思考を身に付けさせたりしていきたい。

＜意見交換＞

意見交換では、パネリストから「三角ロジックを使いこなすだけでも時間がかかるが、対話型論証に広げるためにどんなアプローチがあるか」という質問に対して、前田先生から、まず三角ロジックをしっかりと使いこなすことが大事、その上で自己内対話、他者との対話、対象世界との対話を意識して対話型論証への足場かけをしていくとよいとのお話があり、自己内対話を促す課題の設定として、小学校における２つの実践例をご提示いただいた。また、他者との対話について、対話的な学習場面の設定の例として２つの高校での実践例をお話しいただいた。その中で、『中間発表会後、発表者は付箋紙の「質問」を整理し、「質問」に対して反駁を考え、さらにそれを取り込んでさらに有意な「主張」へと結びつけていく。だから「質問」は発表者への「差し入れ」であり、この「差し入れ」である「質問」を高次の主張につないでいくのが「対話型論証」である。』という言葉が非常に印象に残っている。

コーディネーター
古屋　啓一　教授
（教育実践創成講座）

ご質問　「三角ロジックだけでも生徒たちが理解して使いこなすのに時間がかかりそうですが、さらに対話型論証に広げるために、どのようなアプローチができるでしょうか？」

① 自己内対話
↳ 自己内対話を促す課題の設定

② 他者との対話
↳ 対話的な学習場面の設定

③ 対象世界との対話
↳ 探究的な授業・課題のデザイン

＜参加者のアンケートより（抜粋）＞

- ◆ トゥールミンの三角ロジックを教育現場に用いている教員が、自分以外にもたくさんいることを知り、うれしかったです。
- ◆ ブレイク・アウトルームでの時間が短く、もう少し長めに設定して欲しかったです。
- ◆ 曖昧だった論理的思考力が分かりやすく説明していただきわかりました。ありがとうございました。
- ◆ 日ごろ論理的に自分の考えを述べる力をつけたいと思っているので参考になりました。
- ◆ 国語が中心になったが、今回の内容は他の教科でも実施できると思うので、実践できるよう考えていきたいと思います。
- ◆ 対話型論証モデルの実践について、紹介と実践発表を拝聴することができ、現場での実践に興味をもちました。ありがとうございました。
- ◆ 充実した内容（理論・実践）で、授業改善に非常に役立つ内容でした。ありがとうございました。
- ◆ 今回のフォーラムでは、高校生を対象とした実践がメインだったので、小学校での実践に生かせるかという心配もありましたが、すぐに活かせそうな具体例も知ることができました。
- ◆ もう少し講師からお話を聞ける時間があるとよかった
- ◆ 前田先生のご講演も、パネラーの先生方の実践発表もわかりやすかった。
- ◆ 明日からでも実践したくなる素晴らしい内容でした。
- ◆ 三角ロジックの論理、実践について知ることができてよかった。

- ①遠隔の運営が素晴らしくて感動しました。google slideの使い方、Zoomでの画面共有の仕方、カメラワーク、マイクの回し方等々、遠隔で受けているのに何一つ問題がなく、とても助かりました。
  ②前田先生と同じ問題意識・目的で、我流で全く別なスタイルで同種の教育をしています。まだ十分な咀嚼はできておりませんが、比較検討をすればとても有意義になりそうです。ありがとうございました。
- 私は中学校の国語科ですが、岩永正史先生、そのご師匠の井上尚美先生のご著書から学び、トゥールミンモデルを長く使ってきました。今日ご紹介いただいた対話型も実際にやってみると時間はかかりますが、自分の論の強化のためだけではない、相手の思いみたいなものに思いを致すことができる気がしました。ありがとうございました。
- 新たな視点を手に入れることにつながるいわゆる質問(差し入れ)ツッコミが、自分の考えを広げたり深めたりできる、だからこそ言葉による対話型コミュニケーションが実に面白いという事は、よくわかった。
- 大変貴重な体験もできた。相手に受けいれられる内容かどうか、主張と関係があるかどうかなど、観点を変えて日頃の対話を振り返ってみようと思えた。目から鱗の連続で、大変有意義な時間だった。ありがとうございました。
- 批判的思考と論理的思考の力を効果的に身につけるポイントが理解できた。
- 論証モデルの授業実践をして疑問に思っていた事のヒントをいただき、感謝です。三角ロジックとトゥールミンモデルの関係がわかりやすかったです。
- 勤務校で推進するためには、自分だけでなく、同僚も誘って参加すべきだったと後悔している。
- 演習の時間があったので、理解が深まった。論証モデルの理論についても詳しく聞くことができた。
- 三角ロジックを使ったワークショップは、テーマ設定から私たち教員が主体的に取り組めるもので大変有意義でした。
- パネリストのお二人の先生も、お若いながら研鑽を積まれていると感じる発表で、とても刺激を受けました。
- 有意義だった。次回もぜひ参加したいと思いました。

■令和５年度「前期実習前教師力養成講座」の報告

１　実 施 日　令和６年２月１日（木）Ⅲ～Ⅳ限　１３：１０～１６：２０

２　開催場所　山梨大学教育学部　（甲府西キャンパス）
　　①講演会場　M-12 教室、②相談会室　LC-12、13、14、15、

３　次　　第

（1）　開会行事　長谷川センター長挨拶

（2）　第１部　田中一弘先生ご講演

（3）　第２部　渡井　渡先生ご講演

（4）　リフレクション

（5）　閉会行事　　支援課からのお知らせ、アンケート記入依頼等

（6）　希望者による相談会

　　〇相談員：客員教授　４名（小尾、河野、桐原、河西）および渡部

２月１日（木），山梨大学教師塾プログラム事業の一環として，「前期実習前教師力養成講座」を開催した。

本講座は，主に初めて実習に臨む２年次生を対象に、実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起するという目的の下、学校という職場のよさや教師としての仕事の魅力、効果的な授業づくりの方法等について、現場経験豊かな講師による講義、客員教授による相談会を中心とした前期実習準備講座として行った。今年度は、対面形式で行い、１２１名が受講した。

第１部は，北杜市立須玉中学校教頭の田中一弘先生を講師として招聘し、「道徳科の授業で大切にしたいこと」と題してご講演いただいた。田中先生が実践された、具体的な例を元に、答えがひとつではない道徳的課題に対し、児童生徒が自分自身の問題と捉え『考え・議論する』ために必要なことはどのようなことなのか、わかりやすくご講義いただいた。

第２部は，市川三郷町教育長の渡井渡先生を講師として招聘し，「今日の学校教育の課題～教員を目指している皆さんへのエール～」と題した講演を拝聴した。いじめや不登校など課題山積の教育現場にあって，児童・生徒理解に基づく専門知識や指導技術，人間性等の重要性について事例を交えてわかりやすくお話しいただいた。

講演後に、客員教授の先生方にもご指導いただきながら、グループ別にリフレクションを行い、感想等を交流した。その後、希望者に対して個別の相談会も開催した。

受講後のアンケートには，多くの前向きな意見が寄せられ，充実した学びであったことがうかがえた。

４　受講者数　１２１名

5　　成果と課題

（1）　成果

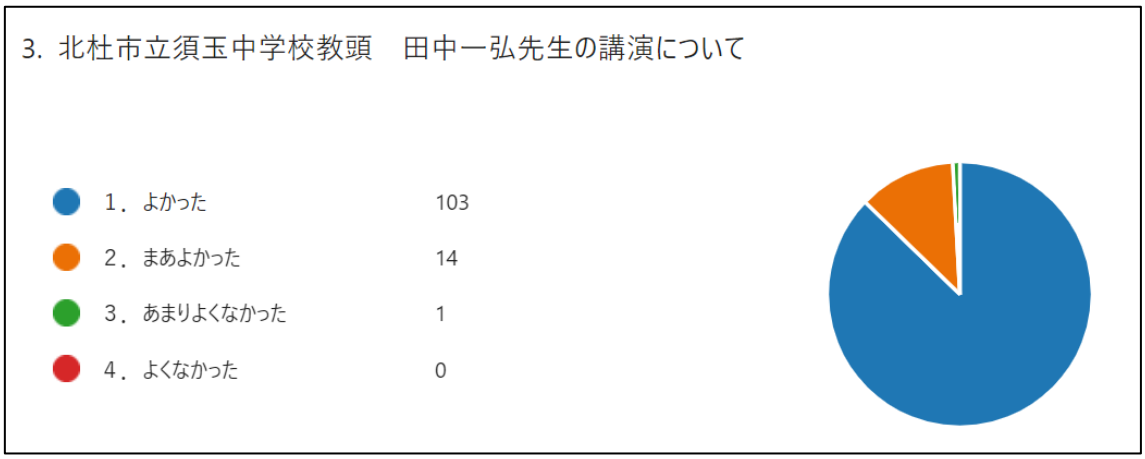
【アンケート結果から】

〇第一部・第二部とも「よかった」がほとんどであり、「まあよかった」との合計は 99%を超える高い評価結果となった。また、その理由からも目的である「実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起する」ことに関した記述が多くあり、本講座の開催意義を感じる。※アンケートの記述詳細は最後に掲載

〇リフレクションにおいては講義内容についての感想やそれぞれの意見の交流を行った。講義を通じて得た知識や考え方を前向きに活用しようとする記述が見られ、よい振り返りになったことが示唆された。また、教育実習に関しての不安や疑問を、自分以外の多くの人も感じていたという記述が多かった。このことが、安心感と、共に乗り越えていこうという意欲喚起につながることを期待したい。

〇希望者による相談会については、小人数であったが、長時間の相談になった会場もあった。相談する学生にとってはとても重要な場であると考えられる。

（第一部　道徳科の授業の講義）



〇問３の回答の理由

（実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起す」に関する記述の抜粋）

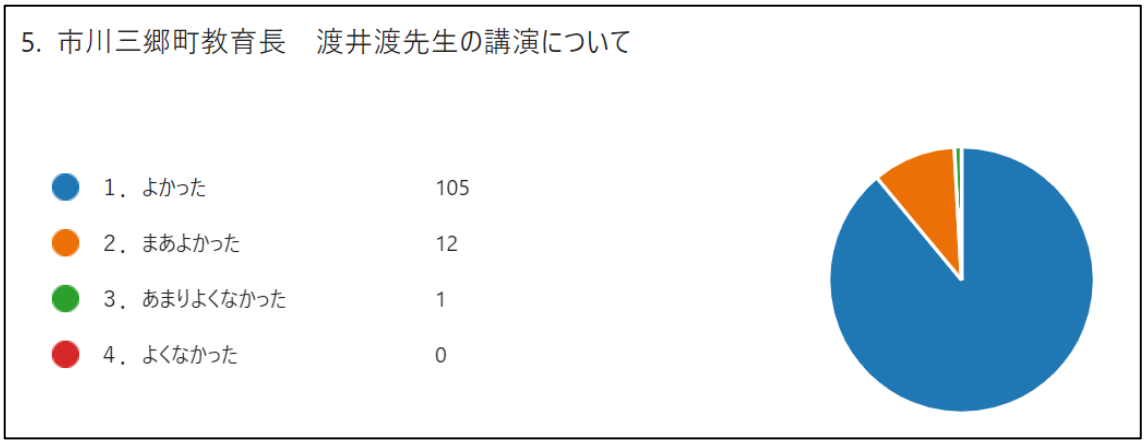
＊道徳の指導について、どのような授業をすると良いのかを具体的に知ることができた点。特に興味深かった点としては、道徳を教える際、先生の話で終わるのではなく、そこから子どもたち自身で再構築することが重要であるということに気づくことができた。

＊道徳の指導案を作ることは難しいと思っていたけど、軸におきたいことを決めればいいのかなと思えたから。

＊道徳の授業は、不安要素が多かったのでお話を聞けて良かったから。

＊実際に道徳の授業をするイメージを掴むことができました。
＊道徳の授業は楽しくない、印象に残りにくいような統計を受けて、自分に楽しさを感じられる指導ができるか不安だったが、話を聞いて、どんな授業をしていくかの考えがしやすくなったから。
＊聴くだけではなく、定期的に他者と意見を交換する場面が設けられていたため、自分の考えだけではなく、みんなの意見に触れることができたため。また、私自身も考える中で難しいと感じてしまう道徳の授業構成に関して考えることができる内容になっていたから。
＊自分自身がどのような授業を行いたいか少し考えることができた気がした。道徳という難しい教科だからこそ面白い講義だった。
＊道徳の指導案作成に役立つ有力な情報を得ることができた。答えをすぐに言わず、子どもたちに考えさせることが大切だと思った。
＊なぜ子どもたちに発言や交流をさせるのかを自分なりに理解できた。道徳を教えるのは難しいと考えていたがどのように考えれば良いかわかった。
＊道徳という教科は、他の教科に比べて指導案を作るのが大変なので、道徳を教えるにあたって必要なことを学べてよかった。
＊これから教育実習に向けて道徳に指導案を書く下準備ができたから。また、考える道徳が大切でそれに向けた発問を考えることが大切であると学ぶことができ授業の構成が行いやすくなった。
＊良い授業をするのが難しい道徳で、どのような問いを立てればいいのか考えるのに、役立つ内容だった。
＊道徳の授業は、大学で勉強する機会が少なく不安だったので聞けて良かった。
＊道徳の授業での発問の工夫に関して、いま一歩よくわかってなかったが、子どもになにを考えてもらいたいのか、どうして考えてもらいたいかが大切ということを学べたから。
＊道徳の授業については、答えがないため難しいと感じていたが、ICT 活用や初めは小グループで喋るなどの活動を通すことで子供達も意見を言いやすくなることがわかったから。
＊今までなんとなく道徳の授業には足りないものが有るなと感じていたが今回の講演で、これまでの授業は判断力心情を考えるもので、本当に必要なものは意欲態度だったと知り、大きく納得したため。
＊道徳の授業について考える中で、答えは一つではない授業についての展開の仕方を学ぶことができた。それが、私たちが教師になったときの道徳の授業に役立てられると思ったから。
＊道徳教育での授業づくりのポイントなどを知ることができた。来年度の教育実習に活かしていけるようにしたいと感じた。

（第２部　学校教育の課題に対する講義）



〇問５の回答の理由
（実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起す」に関する記述の抜粋）

＊教育実習に向けて意識することを決めることが出来たから。
＊教育について大切なことを学べたから。改めて重要な職業だと思った。
＊教師の意義について考えられたから
＊観察は、幼稚園や小学校低学年などに実習に行く際に、言葉以外から読み取る情報が必要な年齢の子どもと接する時に観察することで、異変を感じ取り、いち早く対応することができると感じたから。
＊現実的な内容であり、直ぐに活かすことが出来ると思ったから。
＊学校の課題について深くしれた。
＊具体的な話が多かったり、教職についた時だけでなく自分の人生においてためになりそうな内容が多かったりして面白かった。
＊教員の専門性を確認し、教員になるということに対して前向きになることが出来たから。
＊子供と一緒に考えることをだいじにしたいと常々おもっているけれど実践できないので、頑張りたいと思った。
＊なぜ教員がいるのか、について理解することができた。子どもの幸せや笑顔のために頑張りたいと思った。
＊教師という職業の性質や子供に向き合う姿勢の大切さについて考えることができた。
＊教員の良さについて改めて確認することができた。
＊教職の専門性の話で教師にしかできない指導が大切だと学べた。
＊教職の専門性について自分にしかできないことをよく考えるきっかけとなった。
＊学校教育の課題解決の一つとして児童・生徒理解が大切だということがわかり、自分が教員になった際には自分のクラスの子達をしっかり見てあげる必要があると思った。

＊子どものことを理解して観察することが大切だと改めて感じたから。教育実習でも短い間だが、子どものことを観察して理解できるよう努めたい。
＊教師にしかない魅力を知ることが出来た。
＊これまでの学校教育は反省主体であり、これからは内省を主体にしていくという事で、自分のするべきことが少し見えてきたから。
＊内省を促すと良いという指導を取り入れたいと考えたから。
＊教師になる時の心構えのようなものを知れてよかった。
＊最初は教師の「専門性」について何も知らなかったが、自分の教師カラーを活かしながら子ども理解をしていくことが大切だと知れて良かった。

〇リフレクションで印象に残っていること
（実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起す」に関する記述の抜粋）
＊教育実習では、どのような児童に育てていきたいかについて考えながら取り組んでいきたいという話が印象に残っている。実際の経験を通して、自分の教員としての理想のビジョンを確立していきたいと感じた。
＊今まで指導案を漠然と考えていたので、教育実習に向けて子どもに対してどのように育ってほしいか、どのようなことを身に付けてほしいか具体的に考えていきたい。
＊教員にしか出来ないことや専門的なことをこれからの学習に活かしていきたいと考えた。
＊教師を目指すのも悪くないなと言っている人がいて、気持ちを変える事ができるのがすごいなと思いました。
＊生徒児童理解が大切だということがわかった。自由時間に児童生徒と関わることで、児童生徒理解が進むということがわかった。教育実習では、児童生徒の実態をより早く理解できるようにしていきたいと思った。
＊考える子供を育てるという話が印象に残っています。また、グループの中で話題になったのは、専門性のことについて、専門科目のことしか頭になかったと話していた学生の方が多かったです。そのため、児童生徒理解のできる教員になりたいと考えています。
＊教育実習への不安を感じている人が多い。
＊みんな教員に希望を持ちつつ、プレッシャーも感じていること。
＊みんながどのような事に不安を持っているか知ることが出来た。
＊指示待ち人間になるのではなく、自分で考えて行動できる子どもを育てるために、励ましたり共感したりと寄り添うことが大事だと感じた。
＊みんな同じような疑問を持っていたこと。
＊教育実習で、子どもと関わるときの不安を話し合えたこと。
＊教育実習にむけて今回の講話を生かそうという話をした。
＊子供たちをよく見ることの大切さと、担任にしか出来ない指導の方法について。
＊教育実習では、上手く授業をやろうということばかりに目を向けるのではなく、児童生徒

の思いや願いに目を向けていきたいという内容。
＊実習への不安なことなどを共有することができたこと。
＊実際に教育実習にいった際に心がけていきたいことを話した。
＊押し付けるような指示ではなく、寄り添うような接し方で、これから始まる実習を頑張っていきたい。
＊教育実習に対してみんな不安を抱きながらも頑張ろうとしていたこと。
＊教育実習について様々な不安があることがわかり、特に授業に対して不安が多いと思った。
＊教育実習について、わからないことが多すぎて、何がわからないのかがわからない。
＊失敗に恐れずに、トライ＆エラーを繰り返して、生徒とのコミュニケーションを取るという意見が出たこと。
＊教育実習の悩みなどを共有できた。
＊教育実習に向けて、大変なイメージが多い教育実習でも貴重な経験であり、生の現場を体感出来るのでモチベーションを維持して頑張ること。

（２）課題
〇今年度も、対面形式の計画・運営であった。講師の熱意が伝わりやすく、受講生同士のコミュニケーションもとりやすいため、この形式が望ましいと考える。ただし、グループで話し合う場合は一斉授業型の教室は不向きである。リフレクションも含めグループワークができる教室にする、もしくは、受講生の配置を工夫する必要がある。
〇以下はその他に記述された受講生の要望等である。必要に応じて対策をしたい。
＊教職関係に関する案内をもう少し早く知らせてほしいです。
＊全員参加なら申し込みはなくしてほしい。
＊児童・生徒理解をもとに指導することが大事というなら、大学の授業でもっと小中学校に行く機会が欲しい。また、児童生徒をみとる力を伸ばせる講義を受けたい。
＊後ろから写真を撮っている音があまりに回数的に多くて気が散りました。

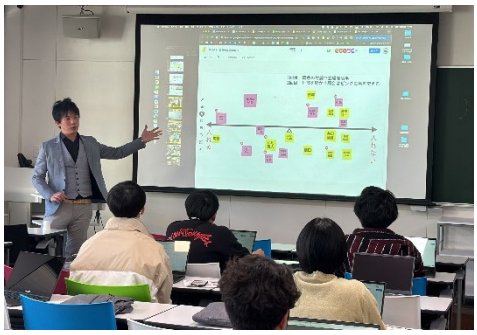
令和５年度　山梨大学教師塾プログラム　教員就職直前講座

「教師に関するもやもや解消講座」報告

新たに教員となる４年次生や大学院生を主な対象として、就職前の不安や疑問を取り除き、学級経営など業務の見通しや、初任者としての心構えをもてるよう、若手教員の講話や、学校でのICT活用に関するワークショップ、客員教授をお迎えしての懇談からなる講座を開催しました。

少人数でしたが、参加者のニーズにあった講座となりました。

１　実施時期　　令和６年２月13日（火）13:10～15:30



２　開催場所　　LC12～LC17

３　次第

（１）はじめの言葉（全体会場LC17）

（２）附属教育実践総合センター長挨拶

（３）ICT活用についてのワークショップ

講師「山梨大学　教育実践総合センター　三井一希先生」

移動（小学校会場LC12・中・高等学校会場LC16）

（４）現職教員（本学卒業生）による講座

講師「中央市立田富中学校　青柳瑞希先生」

「甲府市立国母小学校　武居拓己先生」

（５）何でも質問コーナー

（講師・客員教授との懇談）

（６）おわりの言葉

４　参加者数６名

（小学校４名　中学校２名）

５　アンケートより

・まず自分が教員になって何をするのかもわからない状態で会を迎えましたが、具体的な仕事内容やポイントなども教えていただき本当に役立つ内容ばかりだったと感じています。ありがとうございました。

・とても有意義なものでした。

・現場の先生方に聞いてみたかったことが聞けたので具体的なイメージをもつことができた。

・講座開催にあたりご準備くださりありがとうございます。大変ためになる内容で勉強になりました。特に現場の先生から具体的な学級経営方法、働き方について伺えたことが良かったです。学級経営は経験が全くなく不安なので現場の先生から実践をもっと伺いたいなと思いました。色々とご準備くださりありがとうございました。

・学校現場でのICTの利用について不安なことがあったが、三井先生の講座では、授業を想定して、実際にパソコンを使うことができたので、使い方やどのように授業に取り入れるかをイメージすることができた。また、実際に働いている先生方のお話を聞いて、４月からどのようなことをするのか、教師として大切にするべきことを学んだ。客員教授とのグループ懇談では、「分からないことがあって当たり前だからとにかく聞けば良い」というお話をいただき、励まされた。不安な気持ちが和らぎ、４月から「頑張ろう！」という前向きな気持ちになった。本当にこの講座に参加して良かったと思います。このような講座を開いてくださりありがとうございます。

以上のようなアンケート結果からも分かるとおり、大変好評のうちに講座を結ぶことができました。また、参加者の皆さんから、来年度開催に際しての貴重なご意見をいただくこともできました。講師の先生方・客員の先生方・参加者の皆さんに感謝申し上げます。

夢かなって４月より教職に就かれる参加者の皆さんのご活躍をこころより祈念いたします。

令和５年度　第２回不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会

「～ICT 活用による人とのつながりを考える～」

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターでは、山梨県教育委員会と連携し、「ICT 活用による人とのつながりを考える」をテーマに、同年代の子どもをもつ親御さん同士の活発な意見交換を行いました。SNS やメール、Chat、オンラインゲームなどを子どもたちが多く使うようになってきている中で心配なことや、こうした ICT を活用して不登校の子ども達がどのように人とつながりを持つことができるかなどのテーマについて、自由に意見交換を行いました。

家庭での活発な ICT 利用が報告されましたが、親御さんとしては（情報リテラシー教育）を子供にどのように伝えていけばいいのかといった迷いが語られ、ICT 活用の手引き等があれば利用したいといった要望が挙げられました。また、公的な機関や信頼性の高い大人が運営するオンラインサービスを積極的に活用していきたいという意見が出されました。情報交換会が終わっても保護者の方々が熱心に情報交換されている様子が印象的で、「不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会」が保護者の方々のつながりや支援の輪を広げる一助になっていると思われました。

1.　実施日

２０２４年３月８日（金）

１１:００～１２:００（受付 １０:30～）

2.　場所

山梨大学甲府キャンパス　　Ｌ号館Ｃ棟 １F　LC-１５教室、LC-１６教室（甲府市武田 4-4-37）

3.　参加者

27 名の申し込みがあり、21 名参加

4.　情報提供

・山梨県総合教育センター　相談支援センターパンフレット　配布（山梨県教育委員会より）

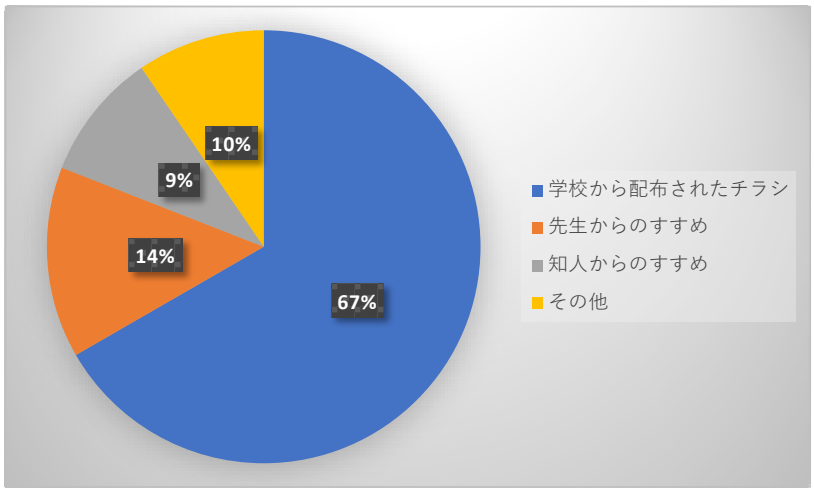
・山梨県／教育支援センター・フリースクール等　Web サイトの紹介（山梨県教育委員会より）

https://www.pref.yamanashi.jp/tokushi-jiseishien/futoukou/kyoikushien_center_freeschool.html

・山梨大学教育相談室　リーフレット　配布

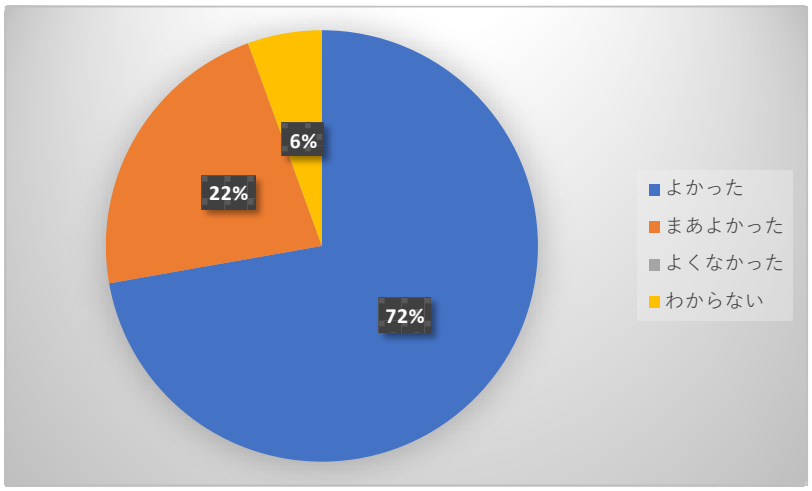
アンケート結果

問１　本会の開催をどのようにお知りになりましたか



・学校から配布されたチラシをみて　67%
・先生からのすすめで　14%（適応指導の先生を含む）
・知人からのすすめで　9%
・その他　10%（思春期セミナーで聞いた，つなぐ LINE より）

問２　本会に参加していかがでしたか



・よかった　72%
・まあよかった　22%
・よくなかった　0%
・わからない　6%

問３　今後の情報交換会のテーマについてご希望があれば

進学進路情報
進路について
勉強面でのサポート
学校とのやりとり
学校の先生との情報共有のついて
不登校の子の支え方
不登校の子どもたちが学校・フリースクール以外で繋がる方法
不登校が原因も人それぞれだと思うので，体験談を聞きたい。
不登校の子どもにどのような機会を提供できるか
学校や行政に求めても，変革は難しく時間がかかる。親が今できること，こどもに役立つ情報，ICTの活用例について紹介して欲しい。
この会をどのように活かすのでしょうか。頑張ってください。応援しています。
情報交換できたのはよかった。しかし，主催側から何かしら有益な情報がもっともらえるものと期待しすぎていて少しがっかりした。教育委員会のHPにフリースクール等の情報があると教えてもらえたのはよかったです。
今回のテーマはとても勉強になりました。情報交換できたことが，心の支えになりました。ありがとうございました。
今日のような感じでお話しできれば良いと思います。

問４　不登校の子どもを支える上でどのようなサポートはあると良いでしょうか

本人が社会とつながりを感じるようなこと，今どのようなことが起きているのかを知り得ることがあると良いなと思います。
特別支援コーディネーターが機能しておらず，担任や管理職とのやりとりにかなりエネルギーを使います。コーディネートしてくれる人材が欲しい（心理職，特別支援教育の経験のある方，親の会など）
保護者同士の交流を通して共有することで，親子関係が良くなると思いました。
皆同じような思いをしているんだと思える事がよかった。
保護者同士の繋がる場
学校からの情報提供
先生たちの不登校理解
フリースクール等への財政的支援（民設民営など）
時代に合ったやり方をしない限りサポートは不可能でしょう。ICTの導入について，地域差があると感じました。
学校での教室以外の居場所
フリースクールなどでの送迎や資金面での支援
支える上で一番大切なのは，母親のサポートだと思います。子供を一日中，出口の見えないトンネルの中を一緒にいなきゃならない辛さ，そして金銭的な負担（フリースクールに連れていく，通うなどの負担）を軽減できる支援があると良いなと思います。
私自身（親）の心が不安定になることがあるので，親のサポートもあるととても嬉しいです。
不登校の子が交流できる場
親同士が交流できる場
居場所
子どもが好きな事で集まれる場所がネット上でもあればいいなと思いました。
子どもたちが自分でネットでつながるICTツールが欲しい
不登校同士のオフ会みたいなものがあればいいなと思います。
子どもが元気になった際，どのような環境を用意してあげたら良いのか，また，先を見通せるような情報と触れられるとありがたいと思います。
現状の学校の形に合わない子たちへの公的なサポート，居場所
ICT活用を上手くするためのセミナー（親・子とも）

■４・５月の主な行事予定

４～５月の行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

研　修

〇新入生合宿研修
　4月26日(金) ～4月27日(土) ・・・・1年全員
〇期間採用者等研修―教師力スキルアップ研修―
　5月18日(土)　　8:30～13:00・・・・期間採用、全学年

教員採用試験対策講座

〇長野県教育委員会説明会　　4月11日(木) ・・・・全学年
〇時事通信出版局による模擬試験２
　4月13日(土) ：13:15～17:30・・・・今年度教採受検者
〇二次試験対策講座１
　4月23日(火) 、4月25日(木) ・・・・今年度教採受検者
〇スキルアップ講座１～問題行動の子どもの実態～
　4月26日(金)：16:30～18:00・・・・今年度教採受検者
〇山梨県公立学校教員選考検査説明会
　5月8日(水) ：15:30～16:30・・・・今年度教採受検者
〇教員採用試験願書作成指導（全体）
　5月9日(木) ：10:40～12:00・・・・今年度教採受検者
〇徽典会塾：４－８月（土曜日開催）・・・・今年度教採受検者
〇スキルアップ講座２～防災教育～
　5月10日(金)：16:30～18:00・・・・今年度教採受検者
〇集団討議対策講座
　5月16日(木)：13:30～15:50・・・・今年度教採受検者
〇スキルアップ講座３～教採合格者の練習方法～
　5月31日(金)：16:30～18:00・・・・今年度教採受検者

進路支援

〇進路支援ガイダンス
　4月2日(火)　13:00～14:30・・・・4年全員、M2、M1、S1
　（ウォーミングアップ講座１含む）
　4月3日(水)　13:00～14:00・・・・3年全員
　4月3日(水)　14:00～15:00・・・・2年全員
〇１年生学生面談
　5月8日(水)、5月15日(水)、5月22日(水)：　13:00～16:00

教育ボランティア

〇教育ボランティアスタートセミナー
　4月10日(水)　13:10～15:10・・・・1年、2年
〇前期教育ボランティアガイダンス
　4月17日(水)　14:50～16:20・・・・全学年